埼玉県学校教育情報化推進計画（仮称）有識者意見聴取会（第１回）

日時　　：令和６年１月２４日（水）１４：００～１６：００
開催方法：オンライン会議
聴取事項：埼玉県学校教育情報化推進計画
　　・目次（案）について
　　・現状と課題について

参加委員：益川委員（別日程）、下野戸委員、原口委員、山崎委員、小池委員、
　　譜久村委員、中川委員、城島委員、佐藤裕理委員、神田委員、
　　曽根委員、佐藤昌宏委員、田中委員

主な発言

○　ICT を活用した授業の実践は大切である。一方で、教職員の指導力向上に向けた研修などの場面においても積極的に ICT を活用することが重要ではないか（研究授業等オンラインでの中継や後日の配信、共有議論など）。

○　自治体によっては学習者用の端末整備に苦慮した、苦労しているところがあると聞く。現在、端末更新に向けた共同調達という話もあるため、これについての県のサポート・取組について言及があると良い。

○　間もなく端末の更新時期を迎えるため、しっかりと予算を確保する必要がある。

○　ICT の良いところは、子供の意見を一覧で見ることを可能にし、子供たちの考えを教員が引き出しやすくなるというところ。また、保護者との連絡など働き方改革にも寄与している。一方で、紙にも良さがあり、バランスを大切にしたい。

○　自治体として、学校数・児童生徒数が少ないが、ICT を活用し、他校との交流を図ったり、海外ともつながったりすることが可能になる。子供たちの機器を使いこなすようになるスピードの速さには驚かされる。

○　ICT の活用について、教員間で差があることに課題を感じている。学校からの通知は２次元バーコードで保護者に読み込んでもらうことにするなど教育クラウドを上手に使っているが、「文房具」というところまでの活用に

は至っていない。ICT 機器が文房具になるくらい教員の ICT 活用指導力を向上させる必要があると感じる。

○　ICT 教育の基盤となるネットワークが複数存在し、これに伴い端末も複数存在する。非常に煩雑である。ICT 環境の改善が必要と感じる。加えて、ICT 支援員の配置など、学校・教員への支援体制を充実する必要がある。

○　ICT の活用は、障害のある児童生徒にとっては、視線入力で絵を描くなどの自己表現やコミュニケーションツールとしての使用が非常に重要視されている。端末に依存しすぎてしまうなどの懸念もあるが、興味があるから操作するなど、意思の表出や手指の使用にもつながるなどの前向きな側面もある。

○　ICT 教育の推進については、学校間で連携して、教材や資料の共有を進めている。

○　ICT を活用しない教員はどの場面で使えばいいかが分からないことが多く、校内での活用場面の事例を周知することで、推進を図った。現在はより効果的な活用方法を模索している段階だが、活用推進の一方で、情報モラルについての指導が浸透していないように思う。どのように指導していくべきか。計画の中に情報モラルについても記載されるとよい。

○　文房具のような使用方法を目指しているが、一人ではなく、全ての教員が児童生徒の発達段階に応じて指導すべきではないか。６年間を通じて指導することが重要で、自分が教えなければ子供たちの能力を欠けさせてしまうという意識を持ちたい。

○　フルデジタルで複線型授業を行ってみたが、調べる、友達の意見を聞く、シートをまとめるという学習活動において、子供たちが、主体的で、意欲的に学習していた。一方で、必要な情報を得るなど準備は大変であった。ICT を活用しきれない原因は、コンテンツ作成の準備と ICT に関する知識不足であると考えている。

○　ICT を活用した授業改善を進めていきたいと考えているが、屋外での実習も多く、総じて ICT を活用した授業形態をとりづらく、学校全体として、活用が広まりにくいと感じている。端末は生徒全員が購入しているが、家

庭の通信環境による部分もあり、活用がなかなか進まない。教員が使用することと生徒が使用することは違うと考えている。

○　今まで板書していたものを単にデジタル化しただけの活用方法に留まっているように感じる。デジタライゼーション、教育ＤＸとステップアップしていかなければならないと思う。また、児童生徒によっては、自立的な活動が重視されるあまり、ICT に依存しすぎないようにとの配慮から、必ずしも積極的になれない場面もある。個々のアプリケーションの使い方や活用事例の共有だけでなく、指導の指針があると良いと思う。

○　毎朝１０分間、端末を使った学習活動の時間が設けられ、一週間単位で課題が課されるようである。目的は読解力の向上のようであるが、端末活用の定着にもつながっているように感じる。学校全体で、端末の活用を進めているように感じる。

○　自立活動の授業で ICT をよく使っていると聞いている。生徒も基本操作が身につき、教員同士で校内研修等に取り組み、多くの先生が積極的に取り組んでいるように感じる。端末は学校保管としているが、家庭で使いすぎないようにというものであり、保護者としては評価したい。

○　教員の活用の格差について、生成 AI の出現により、ICT 活用をさらに加速させる必要があると危機感を持っている。教員が、使わない、使いたくないというのは、児童生徒からデジタルツールを道具として自由につかう機会を奪うことである。

○　埼玉県はハードからソフトへの段階へ入っていると思うが、どのアプリを使っているのかではなく、新たな教育手法の開発が求められる。既存の授業の置き換えであってはならない。子供たちの情報活用能力は、発達段階に応じて育成する必要があると感じており、そのための指導、教え方があるのではないか。

○　ICT の活用推進に向けて、学校や教員に対して、具体的な活用事例を示すのも良いが、教員にはそれを見る時間がない。最低限行うべき活用例など真に必要な ICT 活用事例のみに厳選する工夫も必要ではないか。

○　健康面への配慮から、端末の使用を制限することも大切だが、これは児童

生徒に端末の使い方、付き合い方について自ら考えるチャンスを奪うことである。子供たちが主体的にとうたうのであれば、この視点も大切であると思う。